



令和5年 7月20日 (木)

次なる挑戦に向かって

八、九日に中体連三四予選が開催され、各会場で熱戦が繰り広げました。本校の選手たちもホームページにてご紹介させていただいたように、澁刺とした姿を見せてくれました。

惜しくも県大会に駒を進める結果は残せませんでした。体が調子を崩す仲間もいた中で懸命に試合に臨み、最後の最後まであきらめない見事な「たたかいぶり」を見せてくれたと思います。

いったんここで部活動の区切りを迎える三年生たちに労いの言葉を贈るとともに、これからも続く生涯スポーツや芸術・学問の探求の旅、そして自らの進路実現に向けて、新たなめあてを見出し、くれることを期待します。

一・二年生の生徒たちは、三年生の姿を胸に刻み込み、これから迎えるそれぞれの「あつい夏」に立ち向かってくれることを願っています。

【各部の結果（本校設置部のみ）】

女子バスケットボール部

一回戦○46対35●南中

二回戦●31対138○メリノール中

女子バレーボール部

一回戦●1対2○塩浜中

女子テニス部

団体一回戦●2対3○三滝中

男子テニス部

一回戦●0対7○三滝中

サッカー部

一回戦●0対5○三滝中 個人一回戦敗退

平和について考える夏

賢者は歴史に学び愚者は経験に学ぶ

八月六日、九日、十五日と、夏休みは戦争を振り返る機会となる日々が続きます。しかし、本校の校区についても、戦争体験を持つ方が年々少なくなっていると思われまます。

関係図書を読んだり、戦争史跡・博物館等を訪ねたり、また、テレビ番組を通じて考えを深めたりし、生徒たちとともに平和の尊さをあらためて考える夏になればと思います。

先日、新聞に「置いてけぼりになった気がしても、走る理由がわからないうちは走る必要はない」という一文が引用されていました。これは映画監督・作家の森達也さんの言葉ですが、深い意味があると思います。

記事によると、森さんは著作の中で、「誰かが深く考えずに走り出す。それを見た人も走り出し、気がつけばみんな同じ方向に走っている。事態の意味を知るのはすべてが終わった後。茫然と顔を見合わせ、『だれが責任をとるんだ』と擦り付け合う…」そして、「戦争も差別もそんなふうになってきたのではないか」と述べてみえるようです。（7月13日 朝日新聞）

人間の弱さ、怖さを鋭く突いているように感じます。真の平和は、一人一人が自分を真摯に見つめ、こうした一面が自分の中にもあることに気付くことから始まる気がいたします。

ユネスコ憲章の「戦争は人の心の中で生まれるものだから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」という有名な一節は、そういうことを言っているのではないのでしょうか。

CSの取組と環境整備について

夏季休業中の除草作業のお願いとともに

十日、第二回コミュニケーション運営協議会を開催いたしました。今回は本校が指定を受けた「学校規模適正化検討対象校」の趣旨について、市教育委員会から説明いただきました。すでに進めているアットホームできめ細かな強みを生かした学校づくりや、防災訓練への参加等を通じた地域に根差した特色ある取組について、ご期待をいただけたと感じています。

また、夏季休業中の各地区防災訓練への生徒参加と本校グラウンドの雑草対策等についてご意見を伺いました。これを踏まえ、八月十日にグラウンド限定の除草作業を企画し、その協力依頼を先日させていただいた次第です。

九月九日にもPTA環境美化作業でお世話になりますが、グラウンドは駐車のため作業ができません。二学期を整った環境でスタートできればと考えております。ご理解の程、よろしくお願い致します。

夏季休業中の安心安全について

部活動等の機会を通じて学校でも十分指導いたしますが、交通事故や川・池等の危険な場所での事故のほか、SNS等のトラブルに、お気を付けいただきますようお願いいたします。

なお、八月十日（木）から十六日（日）は市内一斉の閉校日となっており、職員は、原則、出勤いたしません。電話は、週休日同様、市役所に転送されます。ご承知おきいただきますようお願いいたします。

